平成 24 年度　協働パイロット事業審査委員会　審査結果講評

H24.6.25

平成２４年度の協働パイロット事業は、前年に引き続き、1 事業当たりの事業額 25 万円以内で 4 事業を募集したところ、６団体から６事業の提案があり、審査をしました。

審査の視点で重視したのは、協働パイロット事業という名前が示すとおり、地域の課題解決やまちづくりのために先駆的で有効な事業を NPO と市が協働で行うことで、その後の地域づくり、まちづくりへ波及効果があり、継続性があること、すなわち、「事業に広がりがあり協働にふさわしいか、また継続性があるか」というところでした。なぜ協働するのか、その協働事業に広がりが期待できるか、市との協働の必要性の理解と説明が充分できるか、を前提として、また、協働事業として継続できるかが、評価のポイントとなり、これらついて、明確に回答できた団体を評価しました。

提案の６事業を審査した結果、協働パイロット事業としての「協働のふさわしさや継続性」などの評価項目を満たす事業は、NPO POPOLO『生活困窮者の為のフードバンク事業』、サークル OPPO『野良猫の「TNR 活動」及び「地域猫活動」推進事業』、NPO 法人教育活動支援の会『学校支援事業並びに地域教育支援事業の推進』、キャットレスキュー 静岡ねこの会『地域猫活動モデル地区支援事業』の４事業であり、この４事業を平成 24 年度協働パイロット事業として採用するよう市に提案しました。

≪採用手続きについて≫

市市民生活課は、審査委員会の提案を受けて検討とした結果、提案のあった４事業を実施する方向で決定しました。今後、採用団体及び協働の相手方となる関係課と実際に実施する事業内容について協議し、合意した内容で契約を結ぶことで、正式な採用とし、事業を開始することとします。

採用＝◎　不採用＝●

◎NPO POPOLO『生活困窮者の為のフードバンク事業』

全国的に生活困窮者が増加しており、静岡市においても社会的なニーズがあると考えます。また、提案団体は、既に他市においてフードバンク事業に取り組んでいるため、事業の実施に実績があり、実現性が高い点は評価できます。また、事業の実施方法では、モデル事業として地域を限定し実施する方法もあるとの意見もありました。提案団体と市の試行的な協働事業として、よくコミュニケーションを図り、事業の実施方法や個人情報の取扱い等の考え方をすり合わせて、取り組むことを期待します。

◎サークル OPPO『野良猫の「TNR 活動」及び「地域猫活動」推進事業』

猫の避妊や去勢だけでなく、地域の考え方を変える根本的な課題解決を目指しており、独自性が感じられました。地域猫活動に対する自治会・町内会の理解や協力を得ていくことの難しさもありますが、この提案は協働でなければ達成できない事業であり、今後の展開や広がりに期待が持てます。また、同じ課題に取り組む異なるスキルをもった団体と情報交換、連携することで、より効果的な事業が実施できると考えます。

◎NPO 法人教育活動支援の会『学校支援事業並びに地域教育支援事業の推進』

提案書からは読み取れませんでしたが、元教員だけではなく、地域住民を巻き込む新しい事業だとい

うことが、面接審査で明確になりました。教育を受ける子どもたちの現状や必要なサポートを良く把握しています。この課題は、学校での支援だけで解決できるものではなく、地域と学校を結びつけないと解決が難しい問題であり、地域を巻き込むという提案に独自性が感じられました。また、強く求められている事業と考えますので、事業が継続できるよう市に配慮を求めます。

◎キャットレスキュー 静岡ねこの会『地域猫活動モデル地区支援事業』

猫の避妊や去勢費用を抑えるために、独自のネットワークを活用するなどNPOの特性を活かしていること、地域猫活動への高い志をもっていることは高く評価できます。しかし、組織力や事業の継続性において不安も感じます。協働事業は、課題解決への取り組みだけでなく、団体の組織づくりになる面もあります。提案団体には、自らの組織を強化すること、市には、良い助言者として団体を育てる意識が必要です。また、同じ課題に取り組む異なるスキルをもった団体と情報交換、連携することで、より効果的な事業が実施できると考えます。

＊＊

審査委員会では、以下の事業については、残念ながら選外とさせていただきました。しかし、提案内容を見直せば、採用に達する提案もあると感じました。ＮＰＯのもつ特性や人的資産を活かし、市と協働することによってＮＰＯの活動の領域をより広められる事業を企画検討され、再提案、若しくは自主的な活動としての実施や、他団体などとの協働も視野に入れながら、取り組まれるよう審査委員会一同エールを送ります。

●NPO 法人 静岡団塊創業塾『「団塊世代の地域デビュー」推進プロジェクト 静岡団塊サミット（市民・行政・企業がみんなで一緒に考えよう！）』

団塊世代の能力を活かしていく活動に独自性を感じます。まずは、これまでに取り組んできた活動の検証を行い、また提案した事業を独自に開催し、その結果を踏まえ、課題をはっきりとさせ、その課題を解決する手段として、協働事業で実施する必要があるか、協働事業ならば市との役割分担をどのようにするかを検討することで、提案内容や今後の計画の実現性及び広がりが明確になると考えます。また、事業内容においては、ワークショップの内容を発表するだけで終わりにするのではなく、今後につながるしかけや工夫が具体的に示されていると先駆的な取り組みとして期待が持てると感じました。

●NPO 法人 フードツーリズム研究所『「ひとつの静岡」づくり：農村体験をキーワードに「むら」と「まち」の子供間交流をはかろう！』

「むら」と「まち」の子ども間の交流は大切であり、子どもたちの交流を通じて大人が学ぶ事も多く、独自性が感じられました。しかし、活動に参加した子どもたちなどに生まれたコミュニケーションをどう活かすのか、また一過性のイベントとどう違うのかが明確でなく、パイロット事業として先駆性が弱いように感じられました。農村部と都市部の子どもたちの交流を深めることの必要性は感じますので、参加者との活動後のつながりについて再検討することで、よりよい事業になるのではないかと考えます。